



池田 良徳 (大阪府立大学 名誉教授 客員教授)

# 新 クルーズ 学

50

比較的長い旅行というイメージが定着している日本船のクルーズです。が、12月には1〜2泊程の短いクルーズを「クリスマスクルーズ」と銘打って実施するのが定着しています。それも約1カ月の間に、関東、中部、関西と場所を移して実施するので、クルーズのリピーターだけでなく、都会に住むクルーズ初心者でも気軽に乗ることができ、日本のクルーズマーケットを広げる効果も大きいと考えられます。

例年ですと邦船3隻が行いますが、今年は「にっぽん丸」が12月中旬から47泊のモーリシャスクルーズを行うため、クリスマスクルーズを行うのは「飛鳥II」と「ばしふ度」の2隻です。面船で計15回が計画されています。東京発着、横浜発着、名古屋発着、神戸発着の無寄港クルーズ等のほか、横浜―神戸、横浜―名古屋、古屋―神戸といった発着地と着地の異なるクルーズもあり、選択肢が多いのが嬉しいところです。

料金は1泊当たり5〜6万円からと高めですが、移動、宿泊、全食事、ショーなどのエンターテインメントまですべてを含んだ料金です。

## クリスマスクルーズの季節



クリスマスクルーズ時の「ばしふ いくびいなす」の船内ロビー

### ばしふいくびいなす ラストXマス航海へ

リカケルを飲んででもよし、本を読んでもテレビを見ても自由です。

普通のクルーズだと、一夜明けると寄港地が迫ってきて上陸の準備などに忙しくなりますが、クリスマスクルーズでは洋上での航海が続きますので、ゆつくりと起きて大原を眺めながらの朝食から始まります。朝から展望浴場でお湯に浸かるのも悪くありません。船内各所でいろいろなイベントが行われているので、それを覗くのも楽しいものです。

大阪に本拠地をもつ日本クルーズ客船は、年末に出港するニューイヤークルーズを最後にクルーズ客船の運航を中止することを発表しており、「ばしふいくびいなす」のクリスマスクルーズは今年が最後となります。

ぜひ、同船のラストクルーズを楽しんでみてはいかがでしょうか。

ら、陸上での同じような企画に比べても決して高くはありません。

筆者も幾度か日本船のクリスマスクルーズを楽しんだことがあります。まず船内に入ると、優雅な室内演奏で迎えられ、ロビーには大きなクリスマスツリーなどの飾りがた船内新聞に目を通したり、自分自身の予定を組んだり、自由です。好きなショーを見てもよし、クルーズを楽しんでみてはいかがでしょうか。